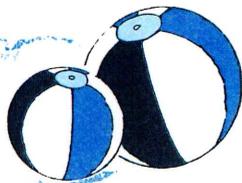


紙ふうせん



第112号

2020.12.25

(特集) じんましん、新薬の開発
発行責任者：日高 誠

<http://www.health-kikaku.co.jp/>

特集 じんましん

じんましんは強いかゆみを伴う発疹が特徴で、15～20%の人が一生のうちに経験すると言われています。アレルギー反応によって起こることが多いですが、いくつかの原因が重なり、長期間に渡って症状が繰り返す場合もあります。

特徴	発疹（ <small>ぼっしん</small> 膨疹・ミミズ腫れ）が不規則な形に現れる ※急速に症状が現れるが、数十分～数時間で消失することが多い
原因	特定の食べ物や薬剤、細菌やウイルス、気温（暑さ・寒さ）、汗など ※疲労・ストレスは直接の原因ではないが、じんましんが出やすくなる
症状	かゆみ、むくみ（浮腫） ※皮膚が過敏になっているため、掻くと痕がくつきりと残ることが多い 重症の場合はまぶたや唇、気道のむくみも現れ、呼吸困難となることもある
検査	●血液検査● アレルギーを起こしやすい項目*に対する反応を調べる *（食物類、ほこり、ダニ、動物の毛、植物・花粉、カビ、昆虫など） ●ブリックテスト●（皮膚アレルギー検査） 原因と考えられるものをつけた針で皮膚に傷をつけ、反応を調べる 血液検査の項目に無い食品なども判定できる ●チャレンジテスト●（負荷試験） 原因と考えられる食べ物や薬物を、少量から摂取して反応を調べる 確実性が高いが身体的な負担が大きく、入院が必要な場合もある
治療	●日常生活で気をつけること● 原因と考えられるものを避ける、爪を短く切る 症状が出た場合は患部を冷やす（冷感が原因の場合を除く） ●薬による治療● 抗ヒスタミン作用の内服薬 ※症状に応じて、かゆみ止めの塗り薬やステロイドを使用する場合もある

「じんましん」の語源

じんましんは漢字で「蕁麻疹」と書きます。蕁麻とはイラクサと呼ばれる雑草のことで、触れると皮膚がかぶれてかゆくなることから、じんましんという言葉ができました。

イラクサ以外にも、ウルシやギンナン、マンゴーなどもかゆみが出る場合があり、症状が1週間くらい持続することもあります。



じんましんの多くは一過性で、症状が治まると皮膚が元の状態に戻るというのが特徴です。1ヶ月以内に治まることが多いため、検査は行わずに薬だけで様子を見ることがあります。

診察の際にうまく説明できない場合は、携帯電話などのカメラで患部の写真を撮って、残しておくといいでしょう。時間や場所、何をしていたか、何を食べたり飲んだりしたか、といった生活の情報も分かる範囲で整理しておく、説明しやすくなります。



6週間以上、症状が続く場合は慢性じんましんとされます。服薬を続けながら、日常生活に支障が無い程度に症状を抑えることが目標とされます。（吉澤）

今月の小ネタ

新薬の開発

新薬はさまざまな研究や試験を行い開発されますが、約10年以上の長い期間と200～300億円の費用がかかるといわれています。

新薬の開発の流れ	
基礎研究 (2～3年)	薬となる可能性のある新たな物質を見つけたり作り出したりする
非臨床試験 (3～5年)	物質の有効性や安全性の試験を動物や細胞に対して行う
臨床試験(治験) (3～7年)	有効性や安全性の試験を人に対して行う 健康な人への試験で安全性を確認した後、患者に有効性の試験を行う
審査・承認 (1～2年)	治験の結果を厚生労働省が審査・承認する 承認されて初めて薬として製造・販売することができる

新型コロナウイルスの治療薬は、既存の抗ウイルス薬や開発途中の薬から新たな有効性を見出す方法や、他の薬よりも優先して審査・承認することで早期実用化に取り組んでいます。（新谷）

いちご薬局 かりん薬局 すみれ薬局
つくし薬局 さくらんぼ薬局 いちご薬局北店